愛情と個別化志向からみた中高年期の夫婦関係(2)

○伊藤裕子・相良順子
(文京学院大学人間学部・聖徳大学児童学部)
キーワード：夫婦関係、愛情、個別化、中高年期

Marital relationship from a viewpoint of their affection and individuation in middle to old age

Yuko ITO, Junko SAGARA

(Faculty of Humanities, Bunkyo Gakuin University, Faculty of Child Studies, Seitoku University)

Key word: marital relationship, affection, individuation, middle to old age

【目的】

家族の個人化が進行し、特に中高年女性においては個人化の具体的表れとしての個別化志向が夫より高いといわれる(岡村, 2001)。前報(伊藤・相良, 2012)では、中高年期夫婦を対象に、夫婦の愛情と個別化志向の2軸により、Fig.1に示す4類型を抽出した。そして、これまで指摘されてきた“個別化志向の強さは夫婦関係の非良好性と結びつく”とは必ずしも言えず、個別化志向が強くても愛情のある自立型の夫婦関係における良好性が明らかとなった。そこで本研究では、同じく個別化志向が強いが愛情の低い脱結婚型の特徴を検討することを目的とした。

【方法】

分析対象：調査対象と方法は前報の通り。4類型の人数は、「自立型」男性 83 名、女性 89 名、「共同型」男性 115 名、女性 165 名、「規範型」男性 104 名、女性 65 名、「脱結婚型」男性 111 名、女性 118 名、計 850 名である。各型は、愛情尺度と個別化志向尺度の男女別平均値を用いて、その高低の組み合わせにより作成された。

分析項目：①夫婦関係満足度：夫婦関係への満足度を10点満点で評価、②夫の家事分担：「食事作り」「食事の片付け・洗い」「洗濯」「掃除」の4項目について、自分と配偶者の頻度を6件法で評定。男性は自身の、女性は配偶者の分担頻度。男性の $\alpha=0.75$ 、女性の $\alpha=0.74$ 、③離婚の意思：男性には「あなたは配偶者との離婚について考えたことがありますか」との間に4件法で、女性には「結婚生活について、もし経済的に可能なら「離婚したい」と思いますか」との間に5件法で回答を求めた。

【結果】

Fig.2 夫婦関係満足度

夫婦関係満足度 分散分析の結果、類型($F=140.3$)

性別($F=61.0$)、交互作用($F=6.9$)とも有意で、自立型・共同型が規範型・脱結婚型より高く、また、規範型は脱結婚型より高かった。Fig.2にみるように、規範型、さらに脱結婚型で女性の満足度は

著しく低下し、男性の同型と大きな差がみられた。

夫の家事分担 男女別に1要因の分散分析を行った結果、男性では類型間に有意傾向($F=2.0$)が、女性では有意な差($F=4.4$)がみられた。Fig.3にみるように、女性では、自立型が規範型・脱結婚型より夫の家事分担が多いと認知していた。一方、脱結婚型の男性は、自立型や共同型の男性と同程度に家事分担を行っているとは認知していた。

離婚の意思 男女別に1要因の分散分析を行った結果、類型間の差は男性($F=30.9$)・女性($F=81.8$)とも有意で、脱結婚型はもちろんのこと、規範型においても自立型・共同型より高かった。しかし、男性で「離婚が選択肢としてある」という者は8.6%で、女性の「離婚したい」という者も含めた25.4%とは大きな開きがみられた。

【考察】

脱結婚型は、個別化志向が高く愛情の低い型で、女性では関係満足度の低さと離婚の意思の高さから、夫婦としての相互性を諦めた関係といえる。一方、男性ではそのいずれも女性ほどでなく、関係満足度と家事分担の認知にみるズレから、妻の認知に疎い特徴があることが示唆された。

Fig.3 夫の家事分担